

2023

12

淡路町を、神田を、
もっと楽しいまちに。

F A B

FREE AWAJI BOOK 8890

特集

ホフディラン

小宮山雄飛

淡路町
ちよい飲み

集い場 はちまる
BaRuRu ~awajicho~



04

小宮山雄飛

集い場 はちまる

BaRuRu ~awajicho~ 訪問

淡路町ちよい飲み

「食べ歩き・飲み歩きが人一倍好き」と語るのは、ミュージシャンの小宮山雄飛さん（ホフディラン）。御茶ノ水エリアは好きでよく訪れるという小宮山さんとふらっと淡路町の人気店に立ち寄り、店主とお話を伺った。

08 インタビュー

小宮山雄飛（こみやま・ゆうひ）

ホフディランのヴォーカル・キーボード。東京都渋谷区出身。渋谷区観光大使兼クリエイティブアンバサダーを務める。お酒やカレーなどグルメにも精通し、音楽活動のほか、テレビ、ラジオ番組の出演、コラム連載なども多数こなしている。

CONTENTS

12 ワテラスチューデントハウス『小さな三崎祭り』

編集○橋口丈

写真○小林玲

イラスト（裏表紙）○川目七生



はちまる店主 加藤貴英さん

30歳のときにサラリーマンをやめて、このお店を始めたという店主の加藤さん。開店した18年前は、ちょうど立ち飲み屋さんがブームになってきていたとき。お酒が好きで、接客業をやりたいかったという加藤さんは、この淡路町で立ち飲み屋を開業。元々飲食業をやっていたわけではなかったため、開業前は様々なところを見てまわるなどから勉強したという。場所柄、立ち飲み屋というところではなかったが、今ではたくさんの人に愛されるお店となった。お店の大家さんに「若いんだから」と勧められ、神田祭の年には、淡路町二丁目町会の一員として神輿を担いでいる。



店主おすすめの「麻婆牛すじ煮込」。旨味がしみわたったほうろくの牛すじが寒い時期にぴったり。

料理も充実。固定のメニューではなく、旬のもので内容を変えていくスタイル。



一杯目のビールは、キンキンに凍ったジョッキで提供。疲れも吹き飛ばす美味しさ。



思わず「うまっ」と声に出る「出汁巻き卵」。出汁が卵全体にしっかり閉じ込められており、小宮山さんも大絶賛。



寒くなってきた時期に、日本酒といっしょにいただきたい「秋刀魚なめろう」。これで699円は安すぎでは？という小宮山さんの意見。



はちまるの

ここが好き

以前、取材で吉田類さんもこちらに立ち寄られ、気に入られたという話を聞いて、腑に落ちました。とにかく居心地がいい！立ち飲み屋だからいろんな方がいらっやって大変なことも少なくないはずだけど、それを楽しんで迎えてくれる店主の加藤さんの人柄ですね。料理も素晴らしい。チェーンでは絶対に味わえない良さがありました。



写真〇小林玲

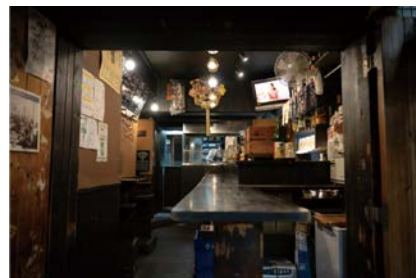
集い場 はちまる

ACCESS

集い場 はちまる
〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町
2丁目 21-20 北本ビル1F
東京メトロ「淡路町駅」「新御茶ノ水駅」、JR「御茶ノ水駅」から徒歩圏内。

味

のある佇まい。ここは、淡路町2丁目に居を構えて18年になるという、立ち飲み屋「集い場はちまる」。その名の通り、お勤め帰りのサラリーマン、個人で事務所を構える社長さん、近隣の大学の先生など様々な人が立ち寄るこのお店を営むのは、店主の加藤さん。明るく気さくな店主と温かな雰囲気、つい時間も忘れてしまう「集い場はちまる」に小宮山さんと立ち寄った。





BaRuRu 店主 片山香織さん

BaRuRu ~awajicho~ はオープンして今年で10年目。以前は、大手飲食チェーンで働いていたという店主の片山さん。このお店を始めるまでは、意外にもお酒は年に数回しか飲まなかったそう。飲んだとしても甘いお酒だったのが、お店をオープンするにあたって徐々に飲むようになり、今ではそれなりに飲めるようになったという。普段お店には、お勤めの方、鳥取県人、近くに住んでいる方が集い、常連と新規が混在し、意気投合するのが日常。「それは片山さんが作られている雰囲気は素晴らしいからに違いありません」と小宮山さんは言う。

オープンからずっと人気の「アンチョビポテトサラダ」。軽く火を通したアンチョビとガーリックの香ばしさに箸が止まらない。



鳥取関連のもののほか、ザ居酒屋メニューのようなもの、最近では肉じゃがが、おでん、ぶり大根などの和食も出している。



鳥取県産・しいたけ焼酎 蕨王をいただく小宮山さん。しいたけ感はそれほど強くないけどすきり飲みやすい、とのこと。



国分の「K&K 缶つま」ともコラボ。



鳥取名物、らっきょう好きという小宮山さん。甘酢。大のらっきょうもご満悦。



BaRuRuの

ここが好き

東京で鳥取県人はどこにいるんだろう？と気になっていたんですが、ここにいたんですね（笑）みなさん、もちろん鳥取の料理を食べたり、鳥取の話がしたかったりするんですけど、やっぱり店主の片山さんとお話がしたくていらっしゃるのだと思います。新しい方にもオープンな雰囲気があるのも、片山さんの魅力があってこそです。また、遊びに来ます。



写真〇小林玲

ACCESS

BaRuRu ~awajicho~

〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町1丁目9-11 1F

東京メトロ「淡路町駅」「新御茶ノ水駅」、JR「御茶ノ水駅」から徒歩圏内。

BaRuRu ~awajicho~



赤

の看板とイラストが施されたお

しゃれな外観。「鳥取にあえるお店」がテーマの「BaRuRu」は淡路町1丁目目オープンして今年が10年目になるとい。鳥取出身の店主・片山さんが営むこのお店には、鳥取県人はもちろん、お勤めのサラリーマン、近隣にお住まいの方などが集う。新規の方もウェルカムなのがバル流。常連の方、たまにの方、新規の方が混在して楽しい時間が流れるこのお店に小宮山さんと訪問した。



聞き手○橋口丈

小宮山さんは、最近、連載や本などで「おひとりさま」というのを推していらっしゃいますね。おひとりであるのが好きなんですか？

もちろん人というのも好きなんですけど、僕の場合、食べ歩きや飲み歩きが人一倍好きなのもあってひとりになりがち（笑）友達と飲む前に0次会的にひとりで飲んだりします。ライブで地方に行くときは、僕だけ前乗りして観光地を回ったり、地元のお店に入ったり。とはいえ、おひとりさまというのには、「ひとりでいよう」ということではなくて、「ひとりの時間もいいよね」という提案です。ハードルを上げすぎずに、友達と行ってみて、いいお店だったら、次はひとりでも行ってみるみたいなことでもいい。最初からバックパッカーみたいに自分ひとりで切り開いていくわけではなくて、みんなといるなかで、ちょっとひとりの冒険の時間もあつたらおもしろいよね、と。

ひとりでどこに行くにも抵抗はなくなりました？

いや、さすがに今でもはじめてのお店は緊張しますよ（笑）こ一年くらいかな、ひとりでお寿司屋さんに入ってみようと思っ

てて。でも、町のお寿司屋さんにとりて入るとびっくりされるわけです。「あんなちゃん、なんでひとりでウチ来た？」って（笑）こちら側も、はじめてのお店だから、値段とかもよくわからなかったり。でも、そのちょっと緊張する感じもいい。お酒やお食事をいただいて、話してみると最終的には和んで、みたいな緩急がおもしろい。行きつけのお店に行ったり、仲間とわいわいするのはいつでも楽しいわけですが、たまにはそういうところに飛び込んでみるのもいいですよ。けっこう緊張もしているから、最初のビールだけでも異常に美味く感じたりする（笑）

ひとりで目覚めたのは子どものころから？

うん、たぶん、そうですね。僕は、ディズニーランドも小学生のころからひとりで行っていたんで（今も行っている）。好きで好きで、毎度いっしょに行ってくれる人がいなくなっちゃった（笑）でも僕としては、ひとりでもやっぱり行きたい。なんというか、「アウトドアなひきこもり」みたいな気質はありましたよね。マイナード的にはひきこもりなんだけど、外にはいたいみたいな（笑）



小宮山さんは自他共に認めるお酒好きだと思いますが、普段はどういう飲み方をしているんですか？

普段は、まあ、基本飲んでるんですけど（笑）わりと日々飲んでるんですけど、シチュエーションをいっぱい楽しみたいという、ちょっと貧乏性的なところがありまして。せっかく御茶ノ水に来たなら、ここも行きたいし、あそこも行きたいってなっ

ちゃう。カレーが好きだからこの辺は名店がたくさんあるし、お蕎麦も好きだし。飲むのも、せっかくならひとりでも行きたいし、友達とはここも行きたいみたいに、何軒も行きたいんです。せっかく気持ちよくなったし、このまま帰っちゃ嫌だからと、最後にもう一軒ひとりで行くか、みたいな。さらに、家でも飲む。酒飲みの人って、意外と家では飲まないとか、何曜日は飲まないとか決めている人が多いんですけど、僕は、何曜日でも、どのシチュエーションでも飲んでますね（笑）

最初はビールから、みたいなのではない？

そういうのはなくて、その場に合うのがいいですね。何か特定のものへのこだわりはなくて、その場の空気感が好きなんです。下町の居酒屋だったら焼酎、お寿司屋さんだったら日本酒、イタリアンだったらワインみたいな、自分側のこだわりではなく、その場所に合ったものを美味しくいただくのが好きですね。

小宮山さんはどんな酒場が好きですか？

最近、町寿司や町中華という言葉がありますよね。町の人が本当に行っているようなお店。僕は、酒場でもそういうところが好



き。町の人があんまりいないようなところ
はそれほど行かないかも。もともと、酒
場ってそういうところなんですよ。東京
の居酒屋文化って、出稼ぎで来た人たちが
家ではなくてお店で食事をして、そこで酒
も飲むようになったところから発展してき
た。だから、そういう空気が好きなんです
。近所の人たちが、家で飲むかわりにそこ
で飲んでみたい。な。

小宮山さんの酒場の原体験は？
ここ（ワテラス）からも近いですが、実は、
神田まつや（神田須田町・蕎麦屋）が、僕
の飲みが一番のベシックにあるんですよ。



子どものころ、父に連れて行ってもらって、
父や周りのお客さんはお酒を飲んでいて、
僕は蕎麦を食べている。いまではファミ
リで行ける居酒屋も多いですが、なか
か人がお酒を飲んでいるところに子ども
って行かないじゃないですか。僕の場合、最
初にまつやに連れて行ってもらって、そ
この風景が原体験ですね。自分は飲まな
いんだけど、そういう雰囲気にもながら
に接して、なんか楽しそうだなって。

**幅広い交友関係をお持ちの小宮山さんです
が、人は好きですか？**
僕は好きなほうじゃないかな（笑）単に人
と仲良くするだけじゃなくて、「人って何
なんだろ」って考えるのも好きなの。



人付き合いの流儀みたいなのはありますか？
流儀ではないんですが、僕の場合、一回人
に会うと、もうその人のことを友達だと思
ってるんですよ（笑）よく「それって友
達じゃなくて、一回会ったことがある人だ
よね」って、つっこまれるんですけど。僕
からすると、一回仕事をしたりすると、も
うそれは友達じゃないかと。これだけ世の
中にたくさん人がいるなかで、一回会う
ってそうじゃないじゃないですか。だから、
一回でも相当な友達だと思っている。そん
なふうに考えているからかわかりませんが、
友達イコール毎週会うような人に限られな
くて、かなり久しぶりの人でも友達のも
りで連絡をとってみたい。今でも幼
稚園のころの人とも会ったり、音楽業界で出
会った人とも会う。

年上、年下ともあんまり考えない？
いや、もちろんそんなに馴れ馴れしくはし
ないですよ（笑）でも気持的には結構フ
ラットに考えている。先日、お仕事で小池
百合子都知事と一緒にする機会がありまし
たが、僕の気持的にはもう友達でいます。
向こうはこちらのことをなんて思っている
かわからないですけど（笑）



色を塗る学生たちの様子。

山内さん。
いくというノウハウが、今回役に立ちました」と
下書きなど小さなものを大きなものに描き変えて
下書きなど小さなものを大きなものに描き変えて
下書きなど小さなものを大きなものに描き変えて
下書きなど小さなものを大きなものに描き変えて

三崎町の新しい景色に歓声があがった。



お披露目会では多くの人が集まった。

プロジェクトを終えて

今回のプロジェクトは、神田警察署をはじめ、

たです」と話してくれた。

最後にプロジェクトを終えた感想をふたりに聞いた。「とにかく楽しかったです。私は現場では指示役にまわっていたのですが、みんなが楽しく描いているのを見たり、警察署の方も手伝ってくれたりして終始楽しかった。自分が好きなことを、みんなの力を借りて実現できたのが嬉しかったです」と山内さん。筆橋さんは、「普段、学校の課題などに取り組むとき、デザインは基本ひとりで作業します。今回は、神田警察署をはじめ、これをするためにいろんな人が関わってくれて、なんかありがたいなあ。多くの人に助けてもらいながら、やりたいようにやらせてもらえて楽しかったです」と話してくれた。



作品名が記されたプレート。

地域の人々や企業の協力があって進んでいった。三崎稲荷神社は、作業の間の荷物の保管に協力をし、また、地域の人たちは、手を洗うための水を

また、細部へもこだわった。「腕の部分など、背景と近い色があつたりして。当日、そういうことに気がついて、都度修正していくみたいな感じでした。ふとした落とし穴に挫けそうになることもあるんですけど、こだわりを捨てずにやれたので、終わったあとはすっきりしましたし、より愛着が湧くようになった」と筆橋さんは言う。色塗りの作業は、7名の学生も加わることで、作業は順調に進んでいた。約1週間にわたった現地作業では、地域の子どもたちも色塗りに参加し、楽しんでくれたそう。8月5日に開かれたお披露目会には千代田区長をはじめ多くの人が集まり、三崎町の新しい景色に歓声があがった。



ワテラススチューデントハウス『小さな三崎祭り』

取材・文〇橋口丈

水道橋駅近くの高架下にあるワテラススチューデントハウスの学生たちが描いたのは、三崎稲荷神社の例大祭をモチーフに様々な生き物が集まる絵だった。神田警察署と千代田区、ワテラススチューデントハウスが協力することで出来上がったこの壁画アート。学生の中心メンバーとして取り組み、普段大学でデザインの勉強をしているという山内晴奈さんと筆橋映水さんに話を聞いた。

プロジェクトのきっかけ

神田淡路町ワテラスにある学生マンション・ワテラススチューデントハウスの学生は、(一社)淡路エリアマネジメントの学生会員として、年間を通じて様々な地域活動に取り組んでいる。その一環で、今回は神田警察署から「水道橋駅近くの高架下に壁画アートを描く」というプロジェクトを相談された。以前からこの場所には「暗いので対策をしてほしい」という声が寄せられていたのだという。「4月にお話をいただいた時点で、私はやる気満々でした」と言うのは、中心メンバーとして取り組んだ山内さん。「壁に絵描けるなんて最高やんって思いました」と当時のことを振り返る。

制作から完成まで

制作が決まって、まず学生たちが取り組んだのがスケジューリング管理だった。「完成日から逆算して、スケジューリングを組んでいきました」と、山内さんと筆橋さんは振り返る。「今回、神田警察署や千代田区など大きな組織が関わっていたので、遅れられないようになって(笑) 多少遅れが出て大丈夫なように、スケジューリングを組んでいきました」。

下絵のデザインを仕上げるにあたっては、現地を下見したうえで、3名の中

“まぜるな危険”

文藝春秋
総局長

新谷学

脳科学者

茂木健一郎

予測不能の完全フリートーク

ふりかえり2023

昨年に引き続き、“まぜるな危険”
文春砲の生みの親・新谷学氏と
脳科学者・茂木健一郎氏が年末対談。

2023年の「あんなこと・こんなこと」を
振り返りながら
来年の展望について語ります。

今年は、動画なしの
完全クローズド・イベントとして実施。
今回ならではの「賛否両論・予測不可能トーク」
をお楽しみください。

12.21 Thu

18:30~20:00

ワテラスコモンホール

定員70名(要予約)

定員になり次第
受付を終了いたします

参加
無料

詳細・申込は
こちらから



9~11月に開催したワテカツイベントをご紹介します。
皆様のご参加、心よりお待ちしております！



WATEKATSU

09.19 Tue. 斉藤祐也さん(元ラグビー日本代表・現解説者)
「ラグビーワールドカップ ベスト4への道」



2023年、フランスで開催されたラグビーワールドカップ。
自国開催の前回大会(2019)では、見事史上初のベスト
8を成し遂げたラグビー日本代表。今大会は強豪ぞろいの
一次リーグを突破し、史上初のベスト4を成し遂げるこ
とができるのか？ 元ラグビー日本代表の斉藤祐也さん
をお招きして、じっくりご解説いただきました。

10.13/14 Fri./Sat.

「高田商店・麦みそづくり 体験ワークショップ」



いま、「健康的でおいしい！」と人気上昇中の麦みそ。
1932年に創業し、愛媛県の鬼北〈きほく〉で豊かな自然
の恵みを受け取りながら「おいしい醤油や味噌、ゆず製
品」をつくっている「高田商店」による麦みそづくりワー
クショップを開催しました。4回にわたって行われたワー
クショップは大人気で、各回とも満員御礼となりました。

10.25 Wed. 伊藤賀一さん(スタディサプリ社会科講師)

「＜シリーズ・地域の魅力再発見＞ 第2回：埼玉 千葉」



スタディサプリで絶大な人気をほこり、さまざまなメデ
ィアで活躍中の社会科講師・伊藤賀一さん。ワテカツ3回
目の登壇となる伊藤さんですが、今回は前回に引き続
くシリーズ・地域の魅力再発見の第2回目、埼玉県と
千葉県の魅力を探りました。地理歴史を楽しく学べる講
義に、会場からは笑いが絶えませんでした。

11.11 Sat. 高瀬文さん(ワテラスコモンスタッフ/ファシリテーター兼伴奏者)

「奏でて、つくろう OTONOWA CRAFT MUSIC 秋の演奏会」



「楽器が好きだけど弾く場所がない」「広い場所でピアノ
と一緒に演奏してみたい」という方を対象に始まった
OTONOWA CRAFT MUSIC。講師の高瀬文さんとともに、
各参加者が夏から練習をし、その発表会が11月に行われ
ました。子どもから大人まで、様々な楽器で奏でられる
音楽に、芸術の秋を感じる一日となりました。



WATERRAS

人情・情緒を引き継ぎ
大きなコミュニティをはぐくむ

FAB

フリーマガジン 8890
No.40 (2023.12.13 発行)

発行：一般社団法人 浜路エリアマネジメント
〒101-0063 東京都千代田区神田浜路町2-105 フテラスファクトリー1311
TEL 03-3526-3883 FAX 03-3526-0090 www.water-ras.com



¥0